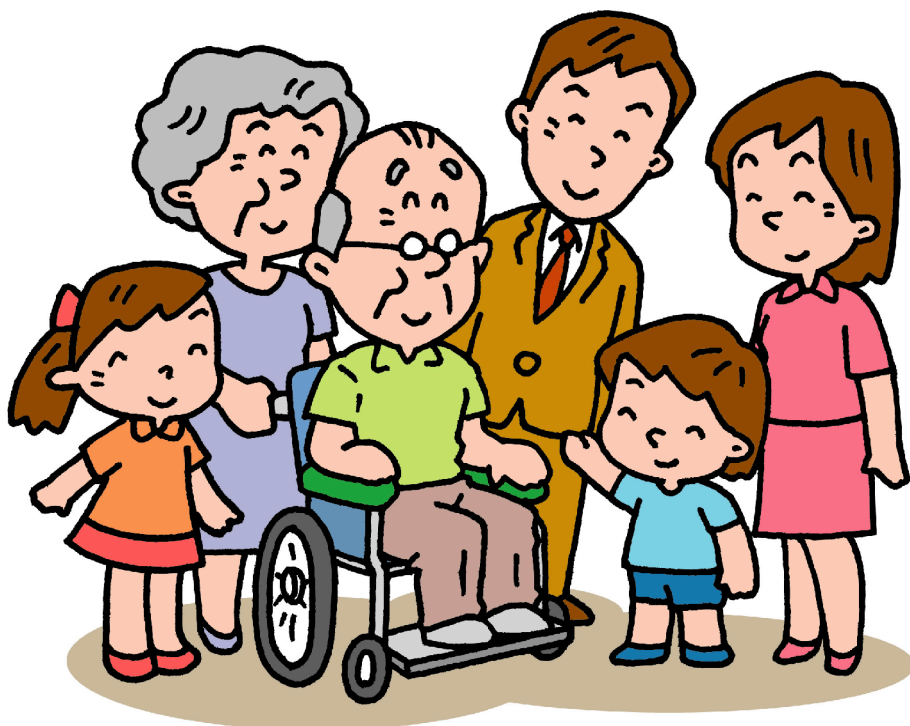


概要版

橿原市第2期地域福祉推進計画

みんなでつくる 健やかで安心して
心豊かに暮らせるまち



平成21年3月

橿原市
橿原市社会福祉協議会
橿原市地域福祉推進連絡協議会



榎原市長
榎原市社会福祉協議会会長
森下 豊

“みんなでつくる 健やかで安心して心豊かに暮らせるまち”をめざして

榎原市では、地域の皆様が主体となった地域福祉活動を推進するために、平成16年9月に“みんなでつくる 健やかで安心して心豊かに暮らせるまち”を理念とした榎原市第1期地域福祉推進計画を策定いたしました。これを受けて地域においては、住民による地域福祉を推進するための組織として16小学校区ごとに地域福祉推進委員会が設置されるとともに、榎原市、榎原市社会福祉協議会が、その活動を支援し、三者が連携することによって地域福祉のまちづくりを進めて参りました。

現在、地域では、地域福祉推進委員会をはじめ各種団体の皆様に住民の交流活動や小学校の登下校時の見守り活動、自主防災活動、広報・啓発活動などを通して、地域福祉を盛り上げていただいております。

その結果、今回実施いたしました市民アンケート結果にも見られますように地域福祉への関心は以前より確実に高まっております。

こうした地域における様々な活動は、地域の財産であり、これからも継続して取り組んでいく必要があります。

そのためには、地域の皆様と榎原市・榎原市社会福祉協議会との連携した取組みすなわち“協働”が大きな柱となります。それぞれが役割を自覚して連携を強化し、一層地域福祉の推進に向けて計画的に取り組んでいく必要があります。今後とも地域の皆様のご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、本計画の策定にあたりご尽力賜りました策定委員会の委員並びに榎原市地域福祉推進連絡協議会の皆様をはじめ、関係する各方面の方々に対し、深甚なる感謝の意を表しまして第2期計画策定のごあいさつといたします。

平成21年3月

◇地域を代表して

“世代間のふれあいと絆を大切に 温かい交流”をめざして

平成16年9月に榎原市第1期地域福祉推進計画が策定され、地域では、市内16小学校区において、住民(自治委員・民生児童委員・各種団体・ボランティア・NPO等)による小学校区地域福祉推進委員会が設置され、様々な地域福祉活動を行ってまいりました。こうした活動がめざすところは、地域に密着した福祉、互いに支え合い助け合う福祉を市内の各地域において実現することです。

私達が住み慣れた地域でしあわせに暮らしていくためには、地域福祉の重要性を無視することはできません。今こそ、若い人から高齢者にいたる世代の住民一人ひとりが地域について話し合い、理解し、だれもが安心して暮らせるやさしいまちをつくるため、手を携えることが大切です。

地域福祉を具体的に実践することは、難しいことですが、地域福祉推進委員会を中心に、各種団体との連携を図り、継続性をもって取り組んでいくことが、必要だと思います。そのためには、次代を担う若い地域住民の皆様にも参加を呼びかけていくとともに、地域で培われた絆を尊び“だれもが参加しやすい 地域福祉活動”をめざして取り組んでいきます。

もちろん、行政にも、こうした住民の取組みの意義を充分理解していただき、きめ細かい指導と積極的な事業展開を望むところです。

最後に、各地域におかれましては、一層のご精励をお願いし、共に益々のご清栄を祈念いたしまして第2期計画策定にあたり、ご協力を賜りましたお礼と今後の推進へのお願いをいたしまして、ごあいさつといたします。

平成21年3月

榎原市地域福祉推進連絡協議会
会長 中井 靖教



1. 計画策定の背景

これまでの高齢者、障がい者といった特定の人に対する「社会福祉」から、地域が抱える様々な問題を地域住民がお互いに支え合い、助け合うことで解決していくことをめざす「地域福祉」の推進が求められています。榎原市では、これまで“みんなでつくる 健やかで安心して心豊かに暮らせるまち”を理念として地域住民が主体となった16小学校区地域福祉推進委員会(推進委員会)を中心に地域福祉活動を進めてきました。

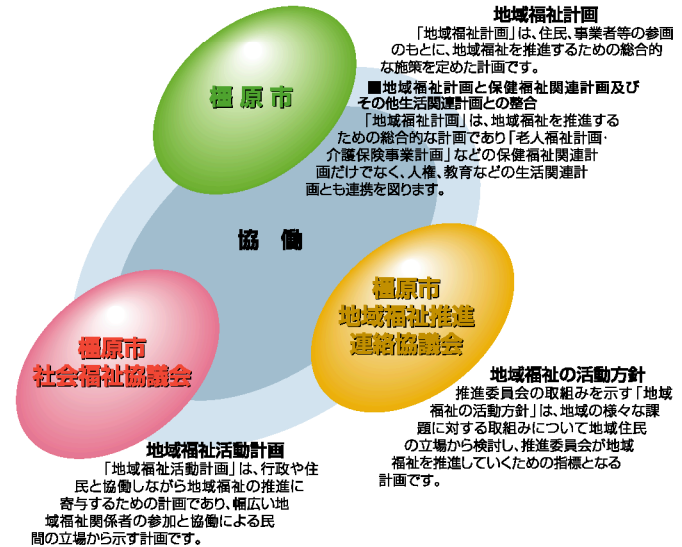
また、各推進委員会の連携を図るための榎原市地域福祉推進連絡協議会が設置され、榎原市、榎原市社会福祉協議会(市社協)、榎原市地域福祉推進連絡協議会(連絡協議会)の三者が連携しながら地域福祉のまちづくりを進めてきました。

本計画は、これまでの地域福祉活動の成果を踏まえ、さらに地域福祉の裾野を広げることを願って策定したものです。

2. 計画の位置づけと計画期間

本計画は、榎原市第3次総合計画の理念を踏まえ、榎原市が策定する「地域福祉計画」、市社協が策定する「地域福祉活動計画」、連絡協議会が策定する「地域福祉の活動方針」を一体的に策定し、地域福祉推進のための基本計画として位置づけます。

本計画の計画期間は、平成21年(2009年)度から25年(2013年)度までの5ヶ年とします。

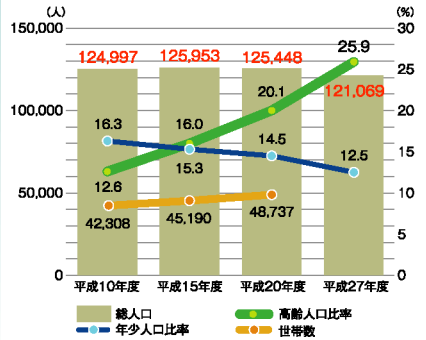




3. 橿原市の地域福祉を取り巻く現状

(1) 人口の状況

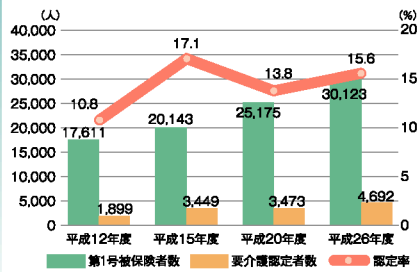
本市の総人口は、これまで増加傾向を示してきましたが、平成15年度以降減少傾向に転じ、平成20年度では125,448人になっています。また、平成15年度以降は高齢人口比率が年少人口比率を上回っており、本市においても、少子高齢化傾向が一層進むと思われる。



※平成10、15、20年度は10月1日現在の住民基本台帳(外国人登録含む)、平成27年度は国勢調査から推計

(2) 要介護・要支援認定者の状況

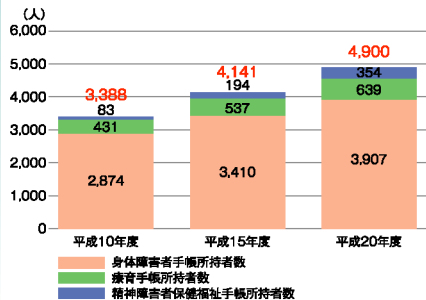
要介護・要支援認定者数は高齢化に伴い、制度開始の平成12年度以降は年々増加してきました。その後、予防重視型サービス体系への制度改正もありましたが、増加傾向は続いており、平成26年度の推計では4,692人と見込まれます。



※認定者=認定者数+第1号被保険者数
平成12、15、20年度は10月1日現在(橿原市介護福祉課)
平成26年度は介護保険事業計画から推計

(3) 障害者手帳所持者の状況

障害者手帳を持っている障がい者の人数は年々増えています。平成20年度では4,900人で、これは橿原市の総人口の約4%にあたります。



※各年度3月31日現在(平成20年度は6月1日現在)(橿原市在宅支援課)



【地域福祉】に関する市民アンケート調査結果から

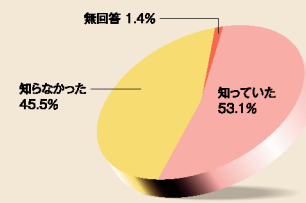
今回の計画策定にあたって、市内在住の16歳以上の方3,000人(無作為抽出)を対象に、地域福祉に関するアンケート調査を実施しました。その一部をご報告します。

・調査方法 郵送による配布・回収
・調査期間 平成20年9月2日~17日
・回収率 43.9%
・有効回答数 1,318件

【地域福祉の認知度】

問あなたは地域福祉という言葉を知っていますか。

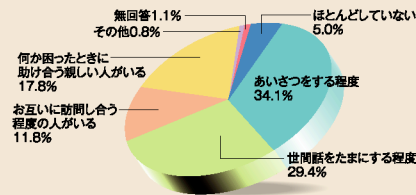
「地域福祉という言葉」の認知度は5割あまりとなっており、今後とも地域福祉活動への理解と参加を促進するための啓発に努める必要があります。



【近所付き合いの頻度】

問あなたは近所付き合いをどの程度していますか。

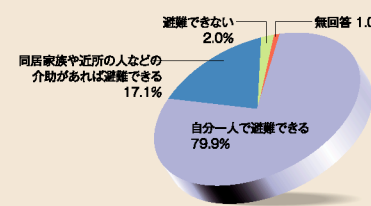
「あいさつをする程度」が34.1%で最も高い結果の一方で「何か困ったときに助け合う親しい人がいる」は17.8%でした。



【災害時の避難】

問あなたは災害時に一人で避難できますか。

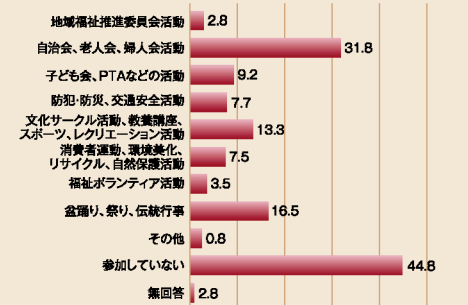
災害時の対応については、「自分一人で避難できる」は8割でしたが、一方で「災害時に避難できない」という人が2%みられました。橿原市の16歳以上人口105,992人(H20年10月1日住民基本台帳)の2%として換算してみると、約2,120人にもなります。



【普段参加している地域活動】

問あなたはふだん地域のどのような活動に参加していますか。

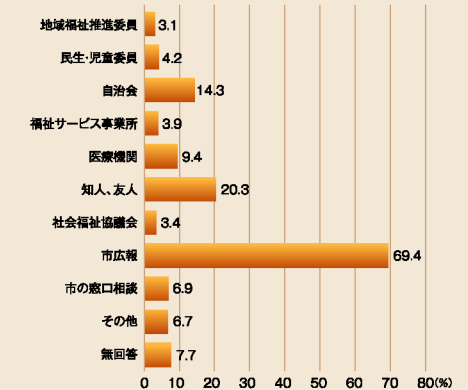
「参加していない」が44.8%で最も高い結果でした。次いで「自治会、老人会、婦人会活動」31.8%の順でした。



【福祉サービスの情報源】

問あなたは福祉サービスの情報をどこから得ていますか。

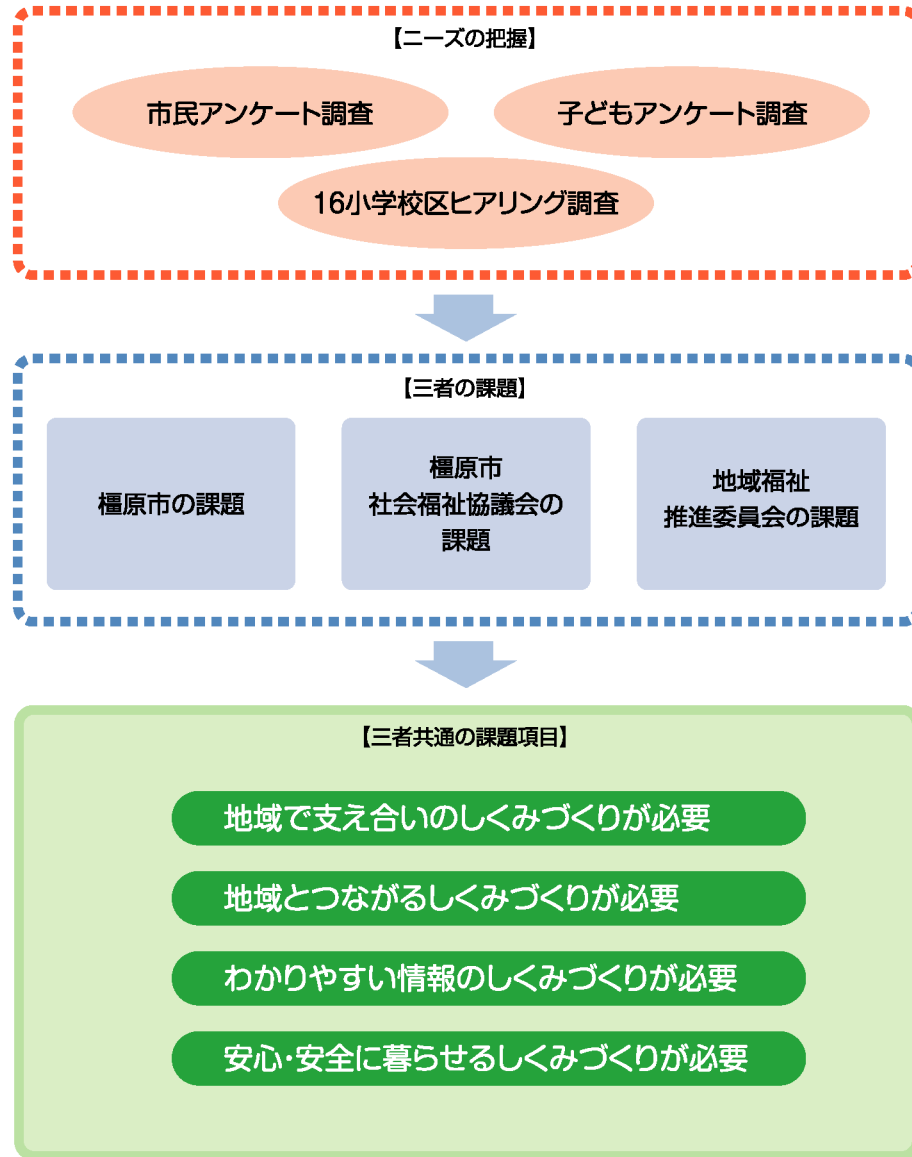
福祉サービスの情報源としては、7割が「市広報」でした。住民にとって福祉サービスに関する情報を得る機会が少ない状況がうかがえます。





4. 地域福祉推進に向けての課題

市民アンケート、子どもアンケート及び16小学校区ヒアリング調査結果から、地域福祉推進に向けた
榎原市、榎原市社会福祉協議会及び地域福祉推進委員会の課題を次に示します。



課題のまとめ

地域で支え合いのしくみづくりが必要

- コミュニティの活性化に向けた取組み
- 地域活動への参加促進に向けての改善策の検討
- 様々な地域活動団体に対する積極的な支援
- 人材の育成や地域福祉に関する学習機会の提供
- ボランティアセンター機能のさらなる充実とボランティアに参加しやすい体制づくり
- 推進委員会活動への参加者の高齢化と固定化の解消
- 次世代へつなぐ交流活動を促す工夫

地域とつながるしくみづくりが必要

- 協働による福祉のしくみづくり
- 子どもの遊び場づくり
- 地域における活動団体相互の交流の促進
- 推進委員会を中心とした連携・協力体制の確立
- 自治会や民生委員・児童委員、生涯学習団体との連携
- 活動拠点の確保

わかりやすい情報のしくみづくりが必要

- 福祉に関する情報を得る機会の充実
- 福祉サービスに関する広報・啓発活動の充実
- 利用しやすい相談体制の充実と相談窓口の周知
- 地域福祉に関する情報提供と発信

安心・安全に暮らせるしくみづくりが必要

- 福祉サービスの充実
- バリアフリー対策
- 雇用・生きがい対策などの自立支援体制の充実
- 健康づくりへの支援
- 防犯・防災体制の強化
- 要援護者の支援体制の確立
- 環境・緑化活動などへの支援

5. 計画の理念と基本目標・取組みの柱



文化祭で園児による歌の発表
(白檀南・北校区)



ふれあいサロンで音楽療法
(耳成校区)



ふれあい交流会で演劇
(耳成西校区)



総合型スポーツクラブと共催で運動会
(香久山校区)



小学校の木の部屋で講習会
(飯俣東校区)

理念

本計画は、樺原市第3次総合計画の施策方針を踏まえながら、子どもから高齢者までだれもが地域福祉活動に参加できるよう、地域福祉の裾野を広げるとともに安全で安心できる地域づくりを進め、住民がともに支え合いながら豊かに暮らせる福祉のまちづくりをめざして、第1期計画の理念を引き継ぎます。

**みんなでつくる
健やかで安心して心豊かに暮らせるまち**

基本目標

アンケート調査結果及び16小学校区ヒアリング結果の課題を踏まえ、これまで進めてきた第1期計画を、“地域福祉を根付かせる計画”と位置づけるとともに第2期計画を“地域福祉の裾野を広げる計画”と位置づけ、4つの課題項目をもとに本計画の理念の実現を図るため、3つの基本目標を次のように掲げます。

【課題項目】

地域で支え合いのしくみづくりが必要

地域とつながるしくみづくりが必要

わかりやすい情報のしくみづくりが必要

安心・安全に暮らせるしくみづくりが必要

【基本目標】

一人ひとりが輝き躍動する元気なまちづくり

みんなで築き ともに楽しむ ふれあいのまちづくり

だれもが快適に暮らせる やさしいまちづくり



幼稚園の講堂でふれあい交流会
(耳成校区)



青色防犯パトロール
(金橋校区)



校区安全マップの作成
(飯俣北校区)

取組みの柱

基本目標の達成のために下記の4つの取組みの柱を掲げます。

みんなで支え合う地域コミュニティの促進

“一人ひとりが輝き躍動する元気なまちづくり”を実現するために、地域住民による地域活動を活性化するとともに住民一人ひとりの地域福祉活動への参加・参画意欲を向上させることで、住民が互いに助け合いながら暮らすことができる、ふれあいと支え合いで築く生きがいのある地域コミュニティの促進をめざします。

みんなで地域福祉活動を推進するネットワークの確立

“みんなで築きともに楽しむふれあいのまちづくり”を実現するために、地域福祉推進の中核である推進委員会と様々な地域活動団体が一体的に地域福祉活動を進められるよう、協働による福祉のしくみづくりを構築するとともに、みんなで地域福祉活動を推進する組織づくりをめざします。

だれもがわかりやすい情報提供の推進

“だれもが快適に暮らせるやさしいまちづくり”を実現するために、様々な機会を利用した情報発信の充実を図るとともに子育て家庭や高齢者、障がい者をはじめ福祉サービスが必要とするすべての人が身近な地域で気軽に利用できる相談のしくみづくりをめざします。

だれもが安心して暮らせる生活環境の充実

“だれもが快適に暮らせるやさしいまちづくり”を実現するために、多様化する福祉ニーズへの柔軟な対応、公共交通施設のバリアフリー化、地域における防災・防災活動、環境美化活動に対する取組みの充実を図るとともに健康で生きがいのある生活環境づくりをめざします。



ふれあい交流会で江州青頭
(鶴公校区)



校区目標啓発看板
(耳成南校区)



ふれあい交流会で講話
(真管北校区)



桜ウォーキング
(今井校区)



ふれあいサロンでゲーム
(新沢校区)



樺原神宮をウォーキング
(飯俣南校区)

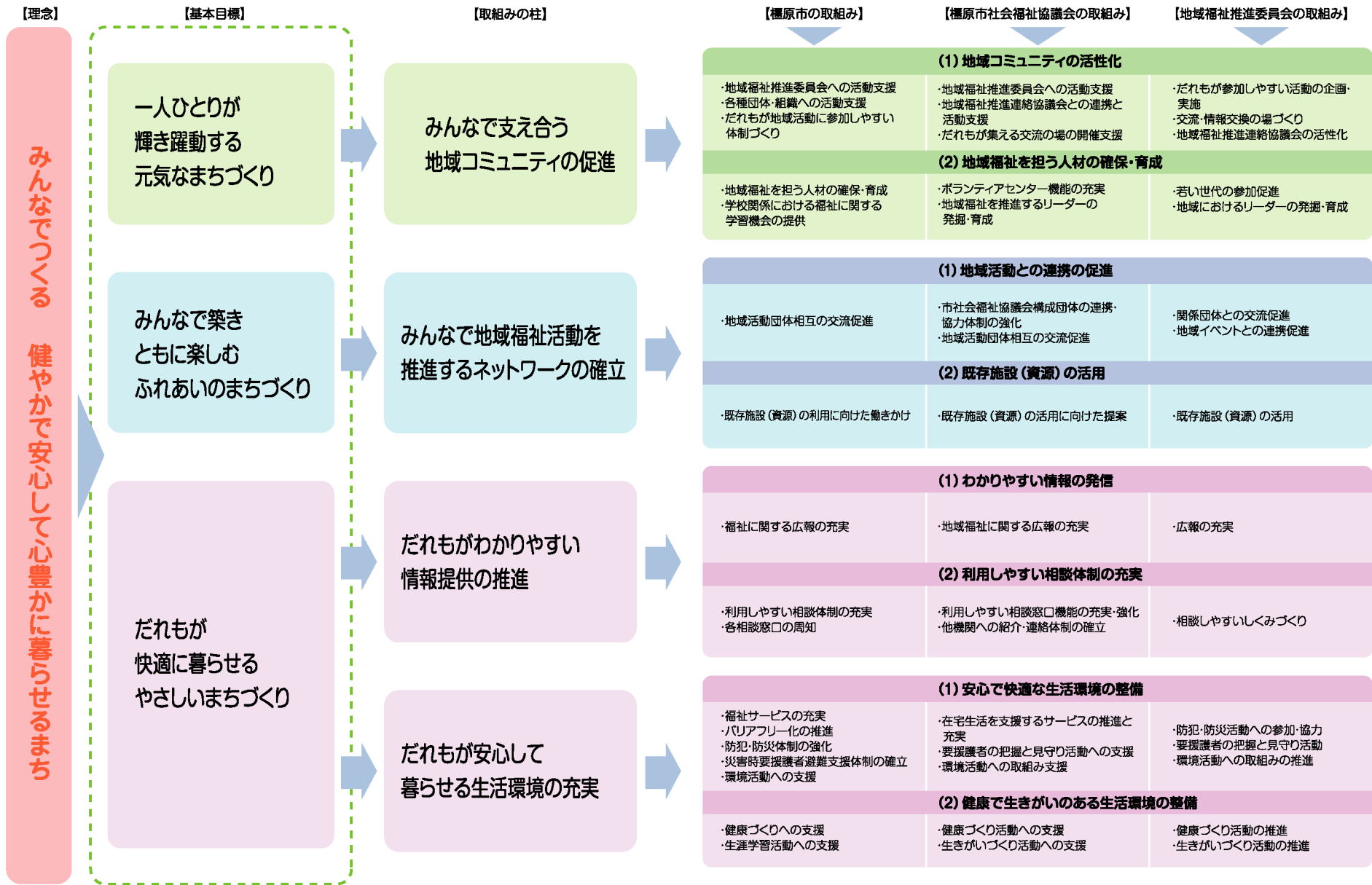


リサイクル館を見学
(真管校区)



健康をテーマに研修会
(白檀南・北校区)

榎原市第2期地域福祉推進計画の体系図





6. 計画の推進のために

第1期計画では、“地域福祉を根付かせる計画”という位置づけのもと、目標を実現するために16小学校区すべてに地域福祉推進委員会が設置され、様々な地域福祉活動を展開してきました。

第2期計画は、地域福祉をさらに推進するために“地域福祉の裾野を広げる計画”と位置づけ、橿原市、橿原市社会福祉協議会及び地域福祉推進委員会三者共通の目標実現のためのしくみづくりを掲げます。

橿原市のしくみづくり

地域福祉計画を推進するにあたり、橿原市と市社協の連携や市全域の地域福祉に関する意識の向上が必要です。そのために、以下のしくみづくりに努めます。

(1) 庁内関係部局の連携

地域福祉を推進するために多岐にわたっている関係部局の連絡体制が必要です。そのため、庁内連絡会議の開催に努めます。

◆庁内連絡会議の開催

(2) 職員の意識向上

庁内職員に地域福祉についての学習の機会を提供し、職員の意識向上を図ります。

◆職員研修会の開催

(3) 市社会福祉協議会との連携強化

地域福祉を推進するうえで、橿原市と市社協が一体となった取組みが必要です。そのため、地域福祉活動の情報の共有化をはじめとする連携の強化に努めます。

◆連絡調整ミーティングの開催

(4) 地域福祉の啓発

地域福祉に関する理念や意識を広めるために、地域福祉に関する啓発活動を行います。

◆地域福祉推進事業の実施



橿原市社会福祉協議会のしくみづくり

地域福祉活動計画を推進するにあたり、幅広い地域福祉関係者の参加を得ながら、地域住民や行政と協働し、地域福祉を推進していきます。そのために、以下のしくみづくりに努めます。

(1) 責任ある執行体制の確立

地域福祉の推進において、責任ある執行体制を確立するため、課題別委員会（地域福祉推進検討委員会）の設置を検討するとともに、理事会・評議員会の機能強化に努めます。

◆課題別委員会（地域福祉推進検討委員会）の設置の検討

◆理事・評議員等への研修会の実施

(2) 事務局体制の確立と行政との連携強化

地域福祉推進において、職員の資質向上・能力の開発を行い、事務局の活性化を図るとともに、事務局体制の確立に努めます。また、行政との連携体制の強化を図ります。

◆職員の研修会への参加促進、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）の活用

◆連絡調整ミーティングの開催

(3) 財源の確保・活用

地域福祉推進において、必要な財源の確保に努めます。また、地域福祉の推進の財源として位置づけられている共同募金運動への協力を推進し、善意銀行などの活用にも努めます。

◆共同募金運動への協力を推進

◆善意銀行などの活用

(4) 地域福祉活動の啓発支援

地域福祉を推進するためには、地域福祉に関心をもち、理解し、参加してもらう必要があります。住民に対し、広く地域福祉活動の啓発を行うとともに、活動に参加するきっかけづくりを行います。

◆地域ネットワーク推進事業の強化

地域福祉推進委員会のしくみづくり

地域福祉の活動方針を推進するために、以下のしくみづくりに努めます。

(1) アクションプログラムの作成

効率的に地域福祉活動に取り組むためには、わかりやすい活動内容の立案に努めるとともに、計画的に実施される必要があります。そのため、各校区推進委員会の行動計画（アクションプログラム）の作成を検討します。

◆アクションプログラムの作成

(2) 地域福祉活動の啓発

地域福祉を推進するためには、理念を広げるとともに、地域福祉に関心をもち、理解し、参加してもらう必要があります。住民、特に若い人に対し、広く地域福祉活動の啓発を行うとともに、活動に参加するきっかけづくりを行います。そのため、行政や市社協と連携した地域福祉啓発活動の推進に努めます。

◆行政・市社協と連携した地域福祉啓発活動の推進

各校区の声

これまでの5年間の活動を振り返りながら、各校区の活動について語っていただきました。

耳成小学校区

■校区目標

話しあおうよ。みんなしてより透明な活気あるまちづくりへ～わがまち再発見～

「耳成山ハイキング、クリスマス会」

子どもと老人との交流を目的とし、地域子ども教室との連携で耳成山ハイキング及びクリスマス会等を実施しました。内容的にはかなり成果があったと思われます。今後は、各地域の老人会との連絡を密にして参加者を増やしていきたいと思いを。

耳成南小学校区

■校区目標

耳成の山ふところにいだから みんなやさしく心豊かなまちづくり

「ミニサロン」

ミニサロンを20年度から始めました。各町(4町)で実施しましたが、ふれあい交流会と趣向が重なることもあり、方向性を定めるのにまだ時間が必要です。

耳成西小学校区

■校区目標

心が通じ合う 安全・安心のまちづくり

「ふれあい交流会」

「ふれあい交流会」は、昨年に引き続いて、知名度のあるプロのアーティストを舞台にのせ、会場にあふれた方にはモニターテレビで見てもらったほどの盛況でした。20年度は、県あげての行事である「平成遷都1300年」の応援タレント代表である歌手の川本三栄子氏を招き、その歌と浪曲を心ゆくまで楽しんでもらえました。

当地区では、マンション住民が大幅に増加していますが、自治会としての連携をどのようにして深め、ここからの参加をどのように進めるかが1つの課題となっています。

晩成小学校区

■校区目標

心身共に健康で互いに支えあうまちづくり

「ふれあいサロン」

「晩成ふれあいサロン」は、毎週1回開催して行っています。内容が変化に富み参加者のニーズにあっており、毎回30～40名の参加者が定着しています。

参加者は、毎回楽しくすごし、喜んで帰り、次回を待ちわびています。

鴨公小学校区

■校区目標

古い京(みやこ)に育まれ 未来に広げよう 交流の輪

「ふれあい交流会、ふれあいカラオケ大会」

様々な活動を通じて地域福祉推進委員会の存在が、地域住民の皆様に認識されてきており、特に年齢に関係なく参加できる「ふれあい交流会」や「ふれあいカラオケ大会」について関心が高く、多くの方々の参加を得て郷土意識の高揚とふれあいを広める場となっています。

香久山小学校区

■校区目標

思いやる心、豊かな自然 地域を愛し、楽しく暮らそう“まほろばの里”

「ふれあいサロン」

ふれあいサロンを通して、地域のコミュニケーションが図れ、また、屋外研修等を通じて団結の気持ちが高まってきているのは、大変心強いことです。

例として昨年11月、香久山営農グラウンドで行った防災訓練には、約300名が参加しました。毎年地域防災訓練を行い、好評を得ています。

畝傍東小学校区

■校区目標

やれやれできる!! 明るい住みよいふれあいのある街づくり～誰もが大好きなまち畝傍東～

「歴史探検ウォーキング」

子どもから大人まで、多くの参加者が各史跡の説明に耳をかたむけ、また話し合い、自然の景色をながめながら、相互のコミュニケーションを図ることができました。

ウォーキングのコースの設定、役員による交通危険防止の誘導等に配慮しました。

専門のボランティアガイドによる各史跡の説明が、参加者にとって好評でした。

畝傍南小学校区

■校区目標

人とふれあい 自然とふれあう 美しい歴史の町を はぐくもう

「送迎ボランティア」

身をもって「送迎ボランティア」を体験すれば、だれでも「時間と運転免許」があればできることを知ります。わが校区に利用させていただくには今少し条件整備が必要ですが、必ず実現できると信じています。

一方「送迎ボランティア」活動の運営方法も今少し工夫が必要な時がきているのではと思います。

畝傍北小学校区

■校区目標

老いも若きも 気軽に声をかけあい 明るい住みよい町づくり～ふるさとのおいがするまちへ～

「ふれあいウォーキング」

「わが町・わが地区を訪ねて」をテーマに、お互いの町の歴史、暮らしを知り、相互の理解・親睦を深めることを目的に実施しました。

それぞれの町には、平素気づかない歴史の跡があり、地域の人から直接話を聞くなど、参加した人々も認識を新たにしました。コースの選定、天候の問題等難しい面もありますが、今後も続けていきたいと思いを。

白樺南小学校区

■校区目標

住みよいまち - あした しらかし 美しい街 - 世代間のふれあいと楽しい交流

「防災看板、健康講演会」

災害時の住民の安全を図るため、町内各単位自治会に避難場所、社会資源等を案内した看板を防災の観点から20年度内に設置します。

また、地域の皆さんの関心の高いテーマに基づいて毎年健康講演会を行っています。泌尿器科・歯科・整形外科・心臓内科・脳外科の5回シリーズで開催し、3回が終了しました。健康について考えるいい機会となっています。

白樺北小学校区

■校区目標

住みよいまち - あした しらかし 美しい街 - 世代間のふれあいと楽しい交流

「防災看板、健康講演会」

災害時の住民の安全を図るため、町内各単位自治会に避難場所、社会資源等を案内した看板を防災の観点から20年度内に設置します。

また、地域の皆さんの関心の高いテーマに基づいて毎年健康講演会を行っています。泌尿器科・歯科・整形外科・心臓内科・脳外科の5回シリーズで開催し、3回が終了しました。健康について考えるいい機会となっています。

今井小学校区

■校区目標

人が元気 心が豊か 癒しある歴史のまち

「ふれあい交流会」

ふれあい交流会の集客力をどうして高めるか、より多くの参加者につながるかがカギ。イベント(例えば娯楽的なものにするか、研修的なものにするか、生活的なものにするか)の内容についての選択がいつも悩むところです。

高齢者に「よし参加しよう」という気持ちをもたせる企画をめざし、これからも取り組んでいきます。

真菅小学校区

■校区目標

ご近所パワーで太いすずなの住みよいまちづくり～人が優しく、気軽に話せるまちへ～

「里山ウォーク」

里山ウォークの担当は、活動部会ですが、事前会議や準備に色々な方面より協力していただくことで、推進委員会みんなの事業であると自覚されています。

参加者も増える方向にあり、定番事業としていきたいと思いを。

真菅北小学校区

■校区目標

笑顔であいさつ 心つながる夢の郷

「地域福祉バザー」

バザーの売上金全額を学校関係とたけのこ園に分けて寄付しました。

◇良かった点:役割分担し、全員協力してやりとげました。

◇難しかった点:値段の設定

◇工夫した点:開会式、アトラクション後から販売をはじめました。

朝市の品物(野菜)は、水分と日陰で新鮮さを保ちました。

金橋小学校区

■校区目標

あいさつが響きわたる豊かな支え合いのまちづくり～夢と希望の新しいまち“金橋”～

「住民発表会&バザー」

住民交流事業、住民発表会及びバザーについては、小学校を会場とし、展示会、バザー、カラオケ大会、ドッチボールと子どもから高齢者まで楽しめるメニューを用意していますが、さらに参加者を増やしたいと考えています。(市のイベントと重なっているのが難点です)

ウォーキング&グリーンキャンペーンについては、子ども連れの家族の参加者が増えてきました。参加者に感想を聞くと、「親と子のコミュニケーションがとれて、たいへん楽しめた」という声もあり、地域の大切なイベントとして定着してきたことを実感しています。

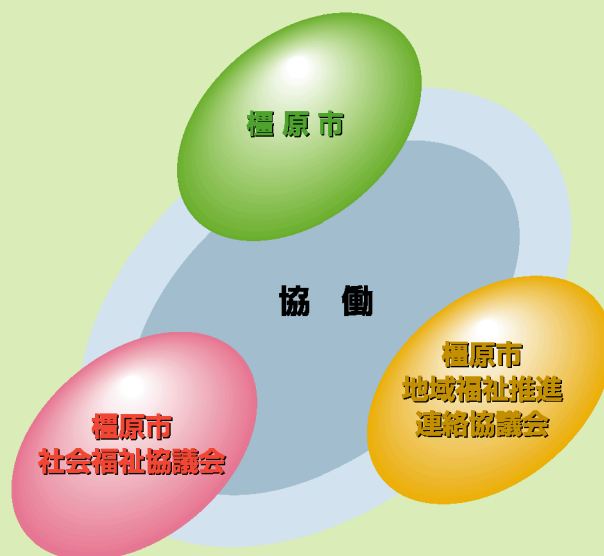
新沢小学校区

■校区目標

あいさつで 心をつなぐ 豊かなまち“新沢”

「ふれあいin新沢」

20年度も昨年に引き続き、郷土愛を育み、地域のつながりを深めようと「ふれあいin新沢」を開催しました。子どもから高齢者まで多くの地域住民が作品展やキャンドル(約5,000個)のライトアップを楽しみました。(参加人数約900名)公民館内では、子ども教室や高齢者のふれあいサロン等の活動展、地域住民の作品展、幼稚園の庭では中学生のブラスバンドの演奏、夕方からは中学生による「子どもとおばあちゃんを描いたキャンドルの絵」、道路脇に並べたろうそく、公民館に創られた竹のオブジェに火を灯し公民館やその周辺を光で演出し、古代衣装を着て幻想的な夜を体験しました。地区内の様々な団体、子どもからお年寄りまで、準備、運営、出品、見学、体験等、地域のだれもが何らかの形で参加するイベントとなりました。このイベントを成功させようと思いつけることができ、地域の連帯感が高まったように思います。



橿原市第2期地域福祉推進計画概要版

平成21年3月

編集・発行 橿原市

〒634-8586 奈良県橿原市八木町1丁目1番18号

TEL : 0744-22-4001 FAX : 0744-24-9705

<http://www.city.kashihara.nara.jp/>

橿原市社会福祉協議会

橿原市地域福祉推進連絡協議会

〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町9番地の1

(橿原市保健福祉センター南館3階)

TEL : 0744-29-3880 FAX : 0744-29-4400

<http://www5.ocn.ne.jp/~k-ikiiki/>